（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	小金渕佳江	所　属	医学部先端医学研究センター	職　名	特命助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.05	医学研究科の大学院生が実施するゲノム解析に関する解析相談を受け、解析技術とそれに伴う思考プロセスを獲得できるような教育を行う。	0.05	人体解剖学講座の大学院生がゲノム解析をする際のアドバイスを実施した。また、医学部3年次の基礎配属実習にて人体解剖学講座に配属された学生のためのゲノムデータ解析手順の構築に貢献した。
研究	0.85	沖縄バイオインフォメーションバンク事業において、検体収集業務への参画する。科研費による研究（代表1件、分担1件）を進める。また新たに外部資金獲得のための申請書を作成する。得られた成果を国内外の学会での発表するとともに、国際雑誌へ論文を投稿する。医学部における次世代シーケンサー勉強会の実施し、解析技術向上に貢献する。	0.85	科研費による研究を推進し、それに関する発表を次の通り実施した：国際学会（口頭）1件、国内学会（ポスター）1件、国際シンポジウム（口頭）1件、国際シンポジウム（ポスター）2件、国内研究会（口頭）4件。また国際雑誌にレビューを1本投稿し受理された。医学部・医学研究科に所属する教員及び学生を対象にしたNGS解析勉強会を月1回実施し、大規模配列解析を行う方た向けの議論の場を作った。そして参加者への解析のアドバイスを積極的に行った。本年度の沖縄バイオインフォメーションバンク事業における、離島での検体収集業務は実施されなかった。
社会貢献	0.10	沖縄県内のコメディカル養成機関において解剖学の講義を行い、臨床に関連する人体解剖学の基礎知識を会得した人員の養成に貢献する。	0.10	沖縄県内のコメディカル養成機関2校で解剖学の講義を実施した。また、沖縄県内のコメディカル養成機関5校の解剖学実習において実習補助を行った。以上のように、講義と実習の両側面において、臨床に関連する人体解剖学の基礎知識を会得した人員の養成に貢献した。
管理運営	0.00		0.00	
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	屋良さとみ	所　属	医学部　医学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.60	①医学教育企画室の専任教員として、学部学生のカリキュラム作成、その他”医学教育”に関する様々な案件の総とりまとめ的な役割（オーガナイズ）を担う。[M1外来付添実習・医学概論B-1、M2体験学習（愛楽園見学、療養型施設見学）、M3離島地域病院実習、M4TBL・CBT・OSCE、M5 総合試験Ⅰ、M6 総合試験Ⅱ/Ⅲ（・Post CC OSCE）] ②医師国家試験の合格率アップにさらに取り組んでいく。 ③海外大学との医学生の派遣・受入れに関する業務を事務員と共に担当。 ④課外学習支援として、「地域枠一年次学生の県外地域医療実習」（3泊4日の引率も行う）、「地域医療を学ぶための学生セミナー」、「国試対策補講」等を担当する⑤呼吸器内科医として学部学生の系統講義の一部を担当する。 ⑥M2前期の「医学外国語講義」を担当する。 ⑦M4 TBL の講義（30コマ）の初回の講義（オリエンテーションを兼ねる）を担当する。 ⑧M2学生10人の”指導教員”として6年間生活等の指導・教育にあたる。 ⑨学部学生がより良く有意義な学生生活を送れ（学業・生活面等）るよう指導・相談、意見聴取を行う。（良好なカリキュラム改革に向けても含む。） ⑩学部学生の”在学中、および卒後の進路”また卒後より良い勤務状況を得られるように様々な内容についての指導・相談、意見聴取を行い対処していく。	0.60	・毎年、新しい懸案事項が新出してくるも、左記の目標はほぼ達成できたものと思われる。医師国家試験の合格率も、安定した合格率を得られるよう、工夫し考慮・検討・改善・面談実施等してきたためか、H31年2月の第113回医師国家試験においては飛躍的に合格率が上昇した。今後も継続し努力する。 ・ また、全医学科生が、より良い有意義な学生生活を送り、将来、知識・技能・人格的にも立派な医師となれるよう更なる手助けをしていきたい。
研究	0.05	・”医学教育”に関する研究を施行していく。 ・”呼吸器びまん性肺疾患”に関する研究を施行していく。	0.05	・”医学教育”に関する研究のためのデータを継続的に蓄積している。 ・呼吸器内科の診療に関わり、”呼吸器びまん性肺疾患”に関する研究にのためのデータ蓄積に関与した。
社会貢献	0.05	・より良い医療人を多く育成・輩出することで、社会貢献していく。　・内科、呼吸器内科医として、多くの患者さんの診療をより良く行うことで、社会貢献する。 ・”呼吸器びまん性肺疾患”の分野で、学会や研究会の座長依頼が増えており、丁寧にこなしていく。　・これまで同様、”呼吸器内科”分野等の論文査読依頼があった場合には、丁寧にこなしていく。 ・沖縄県産業医研修連絡協議会の委員として、沖縄県の産業医として貢献する。	0.05	・7年前からの5-6年次の総合試験の導入によって、結果的に琉球大学医学科の「医師国家試験」合格率が以前より上昇し、最近ではH31年2月の第113回医師国家試験においては特に飛躍的に合格率が上昇した。 ・また医学科6年間のカリキュラムの改良もあり、多くの良い医師を輩出でき、社会貢献につながっていると思われる。
管理運営	0.15	・医学教育企画室自体を管理運営していく。 ・医学科の教務委員会、カリキュラム作成専門部会、安全衛生委員会、医学教育分野別評価対策委員会、医学部移転　講義棟ワーキング等の委員として、全力を尽くす。 ・琉球大学本学の委員会として、全学学士教育プログラム委員会（URGCC）　、　グローバル教育支援機構コンピテンシー教育専門委員会、沖縄健康医療推進基金運営委員会、日本語・日本事情科目企画小委員会委員として、医学科の代表として使命を果たす。 ・国（文科省、厚労省等）からの方針を実現していけるよう、学務課の方々と協力して対処していく。 ・”医学教育”に関わる多部署とも連携し、FDその他の企画を立案・実施していく。 ・H29年12月に受けた「医学教育分野別評価」の継続委員会（医学教育分野別評価対策委員会）委員として、再度7年後の受審に向けて、改善・改革を推進していく。	0.15	・不十分な点もあるが、かなり達成はできたと思われる。H29年12月に「医学教育分野別認証評価」を受審し、それに向け医学科全体で取り組み、合格することが出来た。その結果、琉球大学の医学教育の内容も向上した。再度7年後の受審に向けて、毎年の改善・改革を本年度も行うことが出来た。 ・現在、11の会議の委員を担っており、各々貢献できたと思われる。
診療	0.15	・内科医・呼吸器内科医（特に専門は”びまん性肺疾患”）として、患者さんの外来・入院診療に携わっていく。	0.15	・患者さん達の診療に関して、目標通り遂行出来たと思われる。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	名嘉地　めぐみ	所　属	医学部　医学教育企画室	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	①国際基準に対応した医学教育カリキュラム改革のために、臨床実習のカリキュラム作成に関わる。②診療参加型臨床実習の実質化を図るために、本学部臨床実習担当者としてオーガナイズする（臨床実習履修簿の作成を取りまとめる。学内及び学外病院の臨床実習担当者と定期的に連絡会を実施する。臨床実習に関して学生や教員から意見の聴取及びアンケート調査を行う）。③臨床実習中の学生及び留年した学生の進路相談や学業サポートを行う。④県立中部病院の臨床実習を支援するために、定期的に訪問し、学生指導を行う。⑤医学部1年次対象のアクティブラーニングのシミュレーション演習、医学部5年次対象の倫理総合討論の運営・実施を担当する。学生の意見を聴取しフィードバックしていく。⑥地域医療に貢献する医師を育成するために、6年次医学科生の離島クラークシップの運営、また医学科3年次地域実習のチューターとして事前・事後学習に関わる。	0.50	①臨床実習に関するカリキュラム作成に関わり、実習目標や教育内容を設定した。②臨床実習連絡会（学内・学外）を実施した。担当教員及び指導医の意見を聴取し、次年度の臨床実習改善に反映させた。③総合試験不合格者及び留年者のと面談し、勉強方法（プランニング等）を提案し学習サポートを行った。又、上級生が下級生をPBLで指導する学生学習サポート事業を実施した④県立中部病院を訪問し、学生レクチャーを行い指導医の負担軽減に関与した。⑤シミュレーション教育や倫理総合討論を通して、学生は多職種連携を含めた安全な医療を目指す考え方、医療の中にある倫理的問題に対して解決する方策を身に付けるよう指導した。学内の臨床実習前OSCEの評価者として学生評価に関わった。⑥医学科卒業時コンピテンスの「地域医療への貢献」を達成するために、6年次医学科生（12名）を離島診療所クラークシップに派遣し、また、医学科3年生の地域医療実習の北部病院担当のチューターとして事前・事後学習に関わった。
研究	0.10	①臨床実習の取り組みについて、医学教育学会で発表する。②熱帯生物圏研究センター等々力英美先生と「異なる調理法によるへちま摂取の血圧に与える影響の検討」について、倫理審査委員会に提出し、共同研究者として研究に関わり、結果を蓄積する。	0.10	①本学の臨床実習の取り組みと学生アンケート結果について、日本医学教育学会で口演発表を行い、他大学と意見交換を行った。②熱帯生物圏研究センターと連携し、へちま摂取による血圧低下効果試験を倫理審査委員会で承認後、共同研究者として研究を実施中である。今年度内に結果をまとめ、学会などで発表予定である。
社会貢献	0.10	①おきなわクリニカルシミュレーションセンターで毎年実施している小学生及び高校生の医療者体験の指導者として参加する。②OSCEあるいは臨床実習後OSCEの外部評価の依頼があれば積極的に協力する。③産業医として、担当事業所の衛生委員会などに参加し、労働者の健康管理の支援を行う。	0.10	①おきなわクリニカルシミュレーションセンターで毎年実施している本学主催の高校生医療者体験2019にインストラクターとして参加し、地域医療に興味のある高校生を指導した（https://www.qab.co.jp/news/20190820118283.html）。②他大学の臨床実習前OSCEと臨床実習後OSCEの外部評価委員として参加し、国内の医学教育に寄与した。③産業医として、学外団体の安全衛生委員会に参加、職員との面談を実施し、労働環境の改善を支援した。
管理運営	0.20	①医学科医学教育分野別評価対策委員会に参加し、国際基準に対応したカリキュラムの改善に関わる。②医学教育企画室員、医学科教務委員会委員として、カリキュラム改革（主に臨床実習等）に関わる。③臨床実習後OSCEの運営・実施を統括し、模擬患者養成も行う。	0.25	①②教務委員会、医学教育分野別評価検討委員会、カリキュラム委員会と医学教育企画室ミーティングへ参加し、本学部のカリキュラム（特に臨床実習）の改善に寄与した。具体的には、臨床実習担当者会議（学内・学外）で意見を聴取後、指導医による評価票やアンプロフェッショナルな学生の評価を改定し、様々な視点から学生を評価できるようにした。今後はその評価を学生及び指導医へフィードバックを検討している。③臨床実習後OSCE（トライアル）の統括、内部評価者（27名）の指導と模擬患者（27名）の養成を遂行し、トラブルもなく終了した。
診療	0.10	①多忙な学内医師の診療業務を支援する。②腎臓専門医として、学外クリニック及び透析施設で診療活動を行う。	0.05	学内の医師が多忙な場合、代診業務を行い、診療をサポートした。腎臓専門医として、地域の病院及びクリニックで腎不全患者の診断、治療、教育を行い、地域医療に従事した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	江口　幸典	所　属	医学部附属実験実習機器センター	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	共通教育「情報科学演習」前後期各1教科計2教科　担当 医学部医学科「医科認知情報科学」及び「医療情報学」 担当 医学部医学科「医学外国語」、「医療学総論」 分担、大学院医学研究科（修士及び博士課程）「研究方法総論」及び「医科情報科学総論」 分担 医療系大学間共通試験実施機構サイトマネージャー 医学部附属実験実習機器センターセミナー・利用説明等の実施	0.30	全ての項目を実施した。
研究	0.40	学会等での報告発表あるいは学会誌等への投稿、発表及び筆頭著者論文を執筆を目指す。ここ数年推進してきた訪問看護入力支援システムの構築を更に推進し、より実用的システムの構築を目指す。また28年度より実施している企業との共同研究を確実に推進し次年度以降の共同研究につなげる。	0.40	訪問看護システムの実用・製品化に向けて、新たに本学での研究成果活用事業の許可を受け、プロジェクトを立ち上げ実施中である。また従来の企業との共同研究も継続実施した。
社会貢献	0.15	沖縄県立浦添看護学校非常勤講師 北部看護学校非常勤講師	0.15	全ての項目を実施した。
管理運営	0.15	医学部附属実験実習機器センターの管理運営・運営委員・情報部門長 医学部RI実験施設主事・運営委員 医学部病原体安全管理委員会委員 医学部ホームページ管理委員会委員 全学情報システム運用委員会（学部技術責任者）委員 次期キャンパス情報システム仕様策定委員会委員	0.15	全ての項目を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	市瀬　広武	所　属	医学部附属動物実験施設	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	医学部学生や医学研究科大学院生を主な対象とした共通教育等科目「動物実験の基礎」、医学研究科大学院講義「実験動物学概論」で、生命科学における動物実験の意義および最新の動物実験手法の紹介を行うとともに、動物実験倫理の重要性をわかりやすく伝える授業を準備し、実施する。また、本学における動物を用いた実習での教育支援を予定している、全学の学生、大学院生および本学で活動する高校生を対象に、実験動物学の講義の実施や、動物実験計画立案の支援を行う。	0.10	年度目標を達成した。医学部・医学研究科の学生教育だけでなく、動物実験に携わる他部局の学生教育にも従事した。学内公募の大学教育改善等経費の支援を受けて、動物実験手技訓練用シリコン製マウス・ラットシミュレータを導入し、講義に取り入れた。
研究	0.40	遺伝子改変マウスを用いた研究を推進して、学会発表、論文公表、および外部資金の獲得に努める。時間をうまく作り出して研究に取り組むようにする。	0.20	年度目標を達成した。責任著者としての論文が Journal of Pathology (JCR2018 IF 5.942) に掲載され、掲載号の表紙を飾った。また、掲載論文についての Invited commentary も同誌に掲載され、高く評価された。論文に関連する学会発表2件と、研究に関する教育講演1件を実施した。学内公募で、産学官金共同研究スタートアップ支援事業（分担）と、学内研究環境整備費の支援を受け、その研究活動や研究支援体制の整備にも従事した。
社会貢献	0.10	国立大学法人動物実験施設協議会構成員、日本実験動物学会編集委員、九州実験動物研究会評議員、国立沖縄高専動物実験委員会委員、琉球実験動物研究会事務局担当として、国内における実験動物学の発展および改善、県内外の実験動物施設の運営や意見交換の活性化に寄与する。	0.10	年度目標を達成した。琉球実験動物研究会を琉大で開催し、県内外の教育・研究機関およびライフサイエンス分野関連企業間の交流を図ることができた。県内教育機関の学生教育にもいくらか貢献することができた。
管理運営	0.30	全学の動物実験委員会副委員長および遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員、医学部の病原体等安全管理委員会委員および廃棄物処理委員会委員としての責任を果たし、大学・学部の管理・運営に貢献する。施設専任教員として、動物実験施設の管理・運営に寄与する。動物実験委員会活動の一環として、動物を使用する教育・研究に従事する全学教職員を対象とした講習会開催および研究活動支援を行う。	0.60	年度目標を達成したのみならず、当初予定を大幅に超える、全学動物実験委員会の業務に従事した。医学部教職員のみならず、本部や他部局の教職員の協力を得て、委員会運営、全学の動物関連施設管理やコンプライアンスにかかわる諸問題の解決に取り組んだ。前年度と比較して、学内状況を大幅に改善できた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成３１年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	高倉 実	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成３１年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成３１年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	共通教育科目（運動スポーツ科学演習）を担当し，全学的教育に貢献する。学部専門科目（疫学，学校保健学，健康教育学，生命倫理学[1]）を担当し，専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目（学校保健学特論・特演，保健学研究方法[2]，保健学特論[1]），大学院博士後期課程科目（健康増進開発学特論，保健学特別講義[3]）を担当し，種々の疫学的研究について講義する。担当科目においてLearning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文，博士論文の指導を行う。4年生の指導教員として学生支援を行う。	0.30	共通教育科目（健康スポーツ科学演習）および専門科目について，各々の授業評価は良好であり，教育目標を達成した。専門科目の「疫学」の講義にLMSのテスト機能を使用して，学生に予習復習させるようにした。その結果，本科目の期末試験の平均点は継続的に高得点を維持している。同様に「健康教育学」および「学校保健学」においてもLMSを活用して指導した。さらに，大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」および専門科目「学校保健学特論」の英語教材をLMSに掲載して復習させるようにした。 今年度は5名の卒業論文を指導した．博士論文1編（外国人特別コース）の主査，博士論文1編，修士論文1編の副査を行った。4年生の指導教員として学生支援を行った。 全学ラグビー部・医学部ラグビー部顧問として学生をスーパバイズした．
研究	0.30	研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。外部資金の獲得を目指し，健康科学に関する研究を積極的に実施する。関連学会の編集委員として学術誌を編集するとともに，関連学会学術誌の査読を行う。	0.30	日本健康心理学会編健康心理学事典（丸善出版）の2中項目を執筆した（査読有）． 国内誌に3編（責任著者1編）の学術論文（査読有）を公表した。 国内誌に1編（筆頭著者）の随筆（査読有）を公表した。 国内学会で11題（筆頭演者2題）の研究発表を行った。 第66回日本学校保健学会メインシンポジウムのコーディネーター・座長を担当した． 研究分担者として，2件の科研費(国際共同研究強化B，基盤B）および笹川スポーツ研究助成を獲得した． 日本健康教育学会誌副編集委員長として，学会誌を編集した． 国際誌11編，国内誌の6編の査読を行った。
社会貢献	0.25	関連学会の代議員・評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県をはじめとする行政の各種委員会の委員等を務め，社会貢献活動に積極的に参加する。	0.25	関連学会の代議員・評議員（日本公衆衛生学会，日本学校保健学会，日本健康教育学会，日本保健医療行動科学会，日本健康学会） 沖縄県公衆衛生学会幹事 日本公衆衛生学会認定専門家 日本スポーツ協会コーチ1 JICA公衆衛生活動による母子保健強化(英語)研修講師（沖縄） 沖縄県食育推進協議会構成員 沖縄県禁煙協議会委員 琉球新報の取材を受けSDGs達成に向け社会疫学の立場から解説した（11/18）．
管理運営	0.15	学内各種委員会に積極的に参加する。	0.15	学内各種委員会や入試関連業務に参加し，管理運営に貢献した．
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	米本　孝二	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	学生が主体的に考え参加できる授業を行う。講義時間以外にも気楽に質問ができる環境を整える。ゼミ生の指導を丁寧に行い、生物統計学の素養を身に付けさせる。	0.30	学部生を対象には保健統計学、卒業研究を指導し、学生の顔を見、理解を確認しながら進めることを心掛けた。また大学院でも生物統計学特論、特別演習（生物統計学）、国際島嶼保健学特論を主として担当し、学生の研究テーマに必要な生物統計学の考え方、スキルが身につく指導を心がけた。他にオムニバス講義の担当として保健学特別講義、保健学研究方法、および医学研究科にて、情報医科学概論、臨床研究教育管理学概論の講義を担当した。いずれも学生の意欲と能力の向上に貢献したと考えている。学位審査も医学博士号の副査2件、保健学研究科修士号の副査4件を担当し、計画を大きく上回る貢献を出来たと考えている。
研究	0.30	生物統計家として多くの医学研究に加わり、論文発表する。	0.30	沖縄バイオインフォメーションバンクのデータ管理を適切に実施した。さらに久米島の子どもの健全育成のための研究を、久米島町役場の担当者および久米島病院の小児科医師とともにを計画立案し、今後の研究の土壌が作製できた。また共同研究の成果も現時点で7本受理されており、順調に進んだと考えている。
社会貢献	0.30	学内外問わず医学研究者に対する統計相談窓口を設置し、多くの医学研究をサポートする。統計学・疫学の講習会・セミナーを行う。	0.30	学内・学外から研究相談を受け、研究デザインや統計解析に関してアドバイスを行った。先端医学研究センター生物統計・疫学公開講演会を主催し沖縄県内の医学研究者への生物統計・疫学研究の啓蒙を行うとともに、有志を対象に統計ソフトの技能まで学べる統計・疫学勉強会も開催した。公立久米島病院、すながわ内科クリニックの医療従事者対象にも勉強会を開催した。さらに山口大学での臨床統計学セミナー講師や、日本臨床疫学会での教育講演、日本骨格筋電気刺激研究会での特別講演、AMED「健康長寿社会の実現を目指した大規模認知症コホート研究」研究班員への疫学・生物統計勉強会講師など、学内にとどまらず幅広い方々への講演・講義を行い、計画以上の活動を実施したと考えている。
管理運営	0.10	人を対象とする医学系研究倫理審査委員会委員、医学教育評価委員会委員としての仕事に責任を持って取り組む。先端医学研究センター生物統計分野分野長として、先端医学研究センターの運営に貢献する。	0.10	人を対象とする医学系研究倫理審査委員会における、ただ一人の生物統計家として、研究の倫理面をきちんと審査することを心掛けた。さらに先端医学研究センター生物統計分野分野長として、先端医学研究センターの活動を推進するとともに、医学教育評価委員会委員、グローバル教育支援機構数理データサイエンス教育支援専門委員会委員として大学の管理運営に貢献した。計画以上の貢献を行えたと考えている。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	照屋　典子	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.33	①学部生の講義では、事例検討、グループディスカッション、グループワーク、シミュレーション演習等を取り入れ、学生の理解、考える力の促進に努める。 ②実習ではOJT、実習施設の臨床看護師との連携を通して、学生が患者へ安全安楽、回復促進に向けた看護を提供できるよう支援する。 ③卒業研究指導においては、学生が主体的に取り組めるよう支援する。	0.33	①学部生の講義では、事例検討、グループディスカッション、グループワーク、シミュレーション等を取り入れ、学生の理解、考える力の促進に努めた。 ②急性期実習では病棟との連携を通して、学生が患者へ安全安楽、回復に向けた看護を提供できるよう支援し、看護統合実習では学生7名を担当した。（教員1人あたり2名の割当てであるが希望者が多かったため） ③卒業研究では、学生が調査、プレゼンテーション、論文作成に積極的に取り組み、1つのテーマ(高齢者ケア施設の看取り推進に向けた課題の検討）に、3名がチームとなって質的、量的研究が遂行できた。3年生3名も、積極的に「小学生のがん教育」をテーマとした研究に取組み、小学生へがんについての授業を実施した。 ④8/25～9/1 Chiang Mai Univ.へ学生8名の国際交流研修の引率を行った。 ⑤博士後期課程　大学院生の副査を2件務めた。
研究	0.32	①科研基盤C研究課題「親子で学ぶがん予防教育プログラムの実践と評価」（代表者）に取り組む。 ②科研基盤B「発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成」、基盤C「中高生への子宮頸がん予防啓発に向けた教育支援」（分担研究者）に取り組む。 ③学会発表、学会誌投稿を行う。 ④日本がん看護学会の代議員、学会誌専任査読委員の役割を果たす。 ⑤附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションに取り組む。 ⑥沖縄県看護協会の学会委員長として、学会企画、運営の統括を行う。	0.32	①基盤C「親子で学ぶがん予防教育プログラムの実践と評価」では、2月3日(月）がん体験者、学校教諭と連携，協働して小学6年生児童と保護者を対象としたがん教育授業の計画を遂行中である。 ②基盤B「発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成」では、大学教員を対象とした調査結果報告書を作成した。基盤C「中高生への子宮頸がん予防啓発に向けた教育支援」では、1月13日(日）中高生、若年女性を対象としたワークショップを開催し、一般市民を対象に講演を行った。 ③International Council of Nurses Congnress(6/27-7/1,2019, Singapore), The6th International Nursing Research of Conference of World Academy of Nursing Science(2/28-29,2020,Osaka)にて, Poster Presentation実施(査読有）。また、Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing に投稿し、受理され(査読有）、Vol.6,389-396 (Oct-Dec)　論文が掲載された。 ④日本がん看護学会の代議員として会議出席、学会誌専任査読委員として1件の査読を実施した。 ⑤附属病院看護師(7西）より看護研究についての相談を受け、助言、研究指導を行った。 ⑥R2. 2.15(土）沖縄県看護研究学会 学会委員長として第34回学術集会企画運営統括、研究支援講座の講話を行う。 ⑦R1.11.17(日）沖縄緩和ケア研究会事務局長として、第1回学術集会の企画運営、事務局を務めた。
社会貢献	0.25	①琉球大学公開講座を開催する（沖縄赤十字病院と共催）。 ②沖縄県の都市計画審議会 1号委員の役割を果たす。 ③九州がんプロ事業の一環として、がん看護セミナー開催、緩和ケアエキスパートナース養成に関するインテンシブコース開講する。	0.25	①沖縄赤十字病院との共催で、9月7日(土）琉球大学公開講座を開催し、一般市民へ緩和ケアに関する普及啓発を行った。（参加者50名） ②沖縄県の都市計画審議会 1号委員の役割として、会議へ出席した。 ③九州がんプロ事業の一環として、がん看護セミナー開催し臨床看護師、学生等50名の参加があった。11月より緩和ケアエキスパートナース養成のインテンシブコース開講中である（受講生8名）。 ④沖縄県看護協会　学会委員長として、協会員（大名訪問看護ステーション、ちゅうざん病院、徳洲会病院の看護師）より看護研究について個別相談を受け、助言、研究指導を行った。 ⑤日本看護協会緩和ケア認定看護師教育課程において、講義を実施した（5コマ）。沖縄県実習指導者講習会で、講義を実施した(3コマ）。
管理運営	0.10	①入試業務は、ミスなく、円滑な運営を行う。 ②教務委員会に参加し、委員（2号委員）としての役割を果たす。 ③看護学コースカリキュラム検討委員会として、カリキュラム改訂の取り組みを行う。	0.10	①入試業務では、学部の推薦入試面接、大学院では試験監督を実施した。 ②教務委員会では、2号委員として、教務に関する議事の審議を実施した。 ③看護学コースカリキュラム検討委員会では、カリキュラム調査を実施し、その結果分析、報告を実施した。これらの結果を踏まえ、改訂に向けた検討を審議中である。 ④6月1日付で成人・がん看護学分野の教授に就任し、分野長として運営を行うとともに、当分野の助教候補者推薦委員長を務めた。生体代謝学分野の准教授候補者推薦委員を務めた。 ⑤9.26(木）八重山高校の生徒、保護者向け大学説明会、10. 6(日）保護者向け大学説明会にて、保健学科の説明を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大湾　知子	所　属	医学部　保健学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	1.今年度から慢性期看護に関する授業と実習を新たに担当する 2.学習相談に関して学生の指導教員と連携して対応する 3.研究活動を授業へ反映します 4.学生からの積極的な意見を聴取する 5.教育補助者を有効に活用して、その資質の向上を行う 6.FDの企画・実施に参加する 7.障がい者、留学生等に配慮した取組を行う 8.進学指導、就職支援について、学生部と連携をとる	0.30	1.今年度から慢性期看護に関する授業と実習を新たに担当した 2.学習・実習相談に関して学生の指導教員、臨床看護師と連携して対応した 3.研究活動を授業へ反映した 4.学生からの積極的な意見を聴取した（授業成績や実習方法などの問い合わせ） 5.教育補助者を有効に活用して、その資質の向上を行った 6.FDの企画・実施に参加した 7.障がい者、留学生等に配慮した取組を行った（患者さんやJICAへの手洗い教育） 8.進学指導、就職支援について、学生部と連携をとる学生がいなかった
研究	0.30	1.学会誌への投稿、発表 2.学会での報告発表 3.学会での役割、活動	0.30	日本環境感染学会、日本感染看護学会での評議員であり、学会発表と座長を担当した。
社会貢献	0.30	1.附属病院でのボランティア活動	0.30	1.琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト代表として活動した http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_191120.pdf http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_191004.pdf http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_191226-1.pdf http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_190926.pdf http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_190906.pdf http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/sga/PublicInformation/VolunteerActivities_191004-1.pdf
管理運営	0.05	1.適切な廃棄物処理の確認 2.病院内感染対策を行う 3.排尿自立指導を行う	0.05	1.九州厚生局や学内監査室の監査時に特別管理産業廃棄物管理責任者として対応し、適切な廃棄物処理の確認を行った。 2.病院の感染対策看護師として病院内感染対策を行った（インフルエンザワクチン接種、ラウンドなど） 3.病院の排尿ケアチームのコンチネンスアドバイザーとして排尿自立指導を行った
診療	0.05	①感染防止対策を実践している。ICD：Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新する。 ②排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する。 ③看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格取得を支援する。	0.05	①感染防止対策を実践している。ICD：Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新する予定である。 ②排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築した。附属病院と連携して看護師9名と理学療法士2名をコンチネンス初級セミナーを開催し教育した。 ③看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格取得を支援した。 ④沖縄県排尿機能研究会世話人：1 年に 2 回研究会を開催して 医療従事者の質向上に努めている
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	東恩納　美樹	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	・シミュレーション演習では、事前学習の促進と学習成果の評価のため、自身が主となって担当する2回の演習について、プレクイズ・ポストクイズを作成する。 ・高齢期看護実践学、高齢期看護実習Ⅰおよび高齢期看護実習Ⅱを担当する。 ・卒業研究では、3年次2名、4年次2名の指導を行う。	0.00	・シミュレーション演習では、2回の演習（ストレッチャーによる患者のエスコート、体位変換）において、事前学習課題、プレクイズ、ポストクイズを作成し、実施した。これにより事前学習の促進につなげることができたと考えるが、ポストクイズでは正答率が低い問題もあったため、演習内容・方法の見直しが必要であることが明らかとなった。 ・左記3つの講義を担当した。高齢期看護実践学では、ベストレクチャラーの公開講義を実施した。高齢期看護実習Ⅱは、記録用紙の改訂を行った。実習指導では、学生のモチベーションを向上させるような指導方法について学び、指導力の向上に努めたい。
研究	0.48	・科研費（若手研究）の2年目の計画を遂行する。 ・原著論文を学術誌に1本投稿する。 ・AMEDのプロジェクトに参加する。	0.00	・科研費の2年目の計画は遅延しており、努力が必要である。 ・Japan Journal of Nursing Science (IF0.663)に原著論文が採択された。 ・AMEDプロジェクト「臨床研究トレーニングに組み入れ可能な能動的研究倫理学習プログラムの開発」に参加し、ケースの作成などを行った。
社会貢献	0.01	・日本看護科学学会のホームページ上の「看護研究の玉手箱」で、自身が行った看護研究の内容を平易に紹介し、看護の知の普及に貢献する。 ・小学生が対象のKidsSimにインストラクターとして参加する。	0.00	・日本看護科学学会のホームページ上の「看護研究の玉手箱」で、看護研究の内容を紹介した。 ・KidsSimは、日程の都合が合わなかったため、参加しなかった。 ・臨床研究ワークショップにチューターとして参加した。 ・チェンマイ大学交流プログラムでは、学部学生との共同演習を実施し、また老人ホームでの施設見学の調整・通訳を行った。
管理運営	0.01	・医学教育企画室委員として活動する。 ・看護師国家試験模擬試験および看護協会の担当として任務を遂行する。	0.00	・日本看護科学学会のホームページ上の「看護研究の玉手箱」で、看護研究の内容を紹介した。 ・KidsSimは、日程の都合が合わなかったため、参加しなかった。 ・臨床研究ワークショップにチューターとして参加した。 ・チェンマイ大学交流プログラムでは、学部学生との共同演習を実施し、また老人ホームでの施設見学の調整・通訳を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00		0.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

令和1年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	大嶺 ふじ子	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	令和1年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	令和1年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	助産学必修科目（周産期学,助産の理論、ウイメンズヘルス、助産管理,助産診、技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,助産実習Ⅰ・Ⅱ、助産統合実習計28単位）担当として、助産師コース選択学生4年次4人、3年次5人に対する助産学実践力評価尺度の基準を満たす講義・演習・実習を行う。学部3・4年生の卒業研究9名、大学院前期課程1名、後期課程3名の研究指導教員として、地域や施設において研究調査を指導する。学部4年次22名の指導教員として、学生の年次履修・進路・就職・生活指導に関わる。	0.40	助産学必修科目（周産期学,助産の理論,ウイメンズヘルス,助産管理学,助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,助産実習Ⅰ・Ⅱ,助産統合実習計28単位）担当教員として、助産師コース選択学生4年次4人、3年次5人に対する助産学実践力評価尺度の基準を満たす講義・演習・実習を行った。大学院前期課程1名、後期課程1名の研究指導教員として、研究調査を指導した。学部4年次22名の指導教員として、学部教育の年次履修・進路・生活指導に関わった。大学院博士前期課程2名・後期課程1名の学位論文審査に加わった。
研究	0.30	平成29年度科研費採択されたテーマ「妊娠期の出産準備状態を支援するセルフケア・アセスメント尺度の開発、評価」の3年目調査研究を進める。研究成果を母性衛生学会、51th Asia-pacific Academic Consortium for Public Health Conferenceにおいて発表予定。これまでの研究結果を原著論文（現在、の共著英文論文2編、共著和文論文2編を投稿予定）としてまとめ、学会誌採択を目指す。	0.30	平成29年度科研費採択されたテーマ「妊娠期の出産準備状態を支援するセルフケア・アセスメント尺度の開発、評価」に関する2年目調査研究をを地域や施設において実施した。本年度、英文原著論文2編（共著）が学会誌採択され、海外学会論文発表1編（共著）および国内発表1編（共著）を行なった。
社会貢献	0.20	母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たす。JICAアフリカ・中南米母子保健研修プロジェクトに助産師育成分野講師として年4回程度参加協力する。SOLA救急救命士養成講座「特殊病態」講師として2単位の講義を受け持つ。	0.20	母性看護学、助産学コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育出前講座を、教員とともに県内中学校で行なった。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営等の役割を果たした。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員・査読委員、琉球医学会評議員・査読委員としての職責を果たした。JICAアフリカ・中南米母子保健研修プロジェクトの講師として2回参加協力した。空の森クリニック（産科・不妊治療）の研究倫理審査委員として職責を果たした。
管理運営	0.10	琉球大学学術助成金選考委員会 臨床・基礎医学部門専門委員、医学部附属病院臨床倫理委員会委員、保健学科入試委員会委員、保健学科母子看護学講座長、地域看護学講座長代理としての職責を果たす。	0.10	琉球大学学術助成金選考委員会 臨床・基礎医学部門専門委員、保健学科母子看護学講座長、保健学科入試委員、医学部附属病院臨床倫理委員としての職責を果たした。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）					
名　前	遠藤　由美子	所　属	医学部　保健学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.42	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 （講義構成、教授方法、資料の工夫） 2.卒業研究における教育法の工夫（演習の運営方法） 3.大学院生(前期、後期課程)への研究指導補佐 （研究実施、分析、論文作成の補佐） 4.学部講義（小児看護学）の実施（講義分担担当） 5.指導教員としての学生支援(2019年度～) 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施	0.42	1.母性看護学、助産学におけるアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業の実施 2.プレゼンテーションスキル向上を意図した卒業研究講義・演習実施 3.大学院前期、後期課程学生への研究指導補佐：（倫理委員会申請補助，研究実施， 分析，論文作成の補佐，学会発表支援，研究計画相談） 4.共通教育，学部講義（小児看護学）の実施（講義分担担当） 5.指導教員としての学生支援(2019年度～) 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施
研究	0.41	1.科学研究費による研究の実施(3件) ①基盤C：離島で働く看護師の未病およびストレスコーピングに関する研究 （研究責任者） ②基盤C：父親の主体的な育児行動を促すバースプランを活用した 看護介入プログラムの開発　　継続に関する全国縦断調査（分担研究） ③基盤C：妊娠期における心身の出産準備を支援する セルフケア・アセスメントツールの開発と評価（分担研究） 2. 他大学教員との共同研究 更年期不定愁訴と生活習慣病の関連（広島県立看護大） 3.研究成果の公表（論文、学会発表）※特に論文公表を重点目標とする	0.44	1.科学研究費による研究の実施(3件) ①基盤C：離島で働く看護師の未病およびストレスコーピングに関する研究(研究責任者) ②基盤C：父親の主体的な育児行動を促すバースプランを活用した看護介入プログラムの 開発　継続に関する全国縦断調査（分担研究） ③基盤C：妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの 開発と評価（分担研究） 2.研究成果の公表（論文、学会発表） 論文：英文2（第1著者1，共著1），邦文（共著2），投稿中英文2（第1著者2） 学会：国際（共著3），国内（共著1）
社会貢献	0.12	1.琉球大学附属病院看護部研修企画・運営支援（看護研究） 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の講師および個別指導 3.公開講座運営(4回/年,、臨床看護師対象の看護研究支援) 4.オープンキャンパスの運営	0.11	1.琉球大学附属病院看護部研修企画・運営支援（看護研究） 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の講師および研究支援 3.公開講座運営(3回/年,、臨床看護師対象の看護研究支援) 4.オープンキャンパスの運営 5. 学会代議員および査読委員（日本母性衛生学会）（2019.7～2年間）
管理運営	0.05	1.琉球大学博物館（風樹館）運営委員会への参画 2.保健学科教務委員会への参画 3.保健学科FD委員会への参画(FD企画運営) 4.保健学科研究推進委員会への参画 5.保健学科後援会への参画（参与）	0.03	1.全学委員会への参画：ジェンダー協働推進室会議（医学部室員） 2.保健学科教務委員会への参画 3.保健学科研究推進委員会への参画 4.保健学科後援会への参画（参与） 5.保健学科同窓会への参画（会計）
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　　□ 学外公表に同意しない。　　□ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	玉城　陽子	所　属	医学部　保健学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	1.母性看護学、母性看護実践学の演習を担当し、シミュレーターを使用したより実践的な教育を実施する。 2.助産師国家資格取得のための基礎助産学として、周産期学（9回）、助産の理論（3回）、ウイメンズヘルス（2回）を担当し、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。 3.助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。OSCEによる実習前の技術評価を実施する。 4.助産実習Ⅰ、助産実習Ⅱ 妊+D13:Y32娠期・分娩期から産褥期までの1連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をとおして実施。長期の実習であることから、学生の健康管理の指導、精神面のフォローを実施。 5.医学科との共修科目であるシュミレーション演習を担当 6.卒業研究Ⅰ・Ⅱの登録学生の指導 7.大学院生(前期課程)への研究指導補佐（調査・データ分析・論文作成指導補佐） 8.卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供。卒業生への大学院進学情報の提供と社会人入学への進学指導を実施する。	0.40	1.母性看護学(演習1回)、母性看護実践学（演習3回、講義1回)を担当し、シミュレーターを使用して、実習に特化した演習を重点的実施した。 2.助産師国家資格取得のための基礎助産学として、周産期学（9回）、助産の理論（3回）、ウイメンズヘルス（2回)を担当し、骨盤模型等を使用して、立体的にイメージしアセスメントにつながる知識の習得ができるように工夫して講義を行った。 3.助産診断・技術学Ⅰ（講義2回)、助産診断・技術学Ⅱの科目担当。 基礎助産学の知識の確認と同時に、アセスメント・診断・計画につなげて、実際の症例についてアクティブラーニングを実施した。 助産診断・技術学Ⅲの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施し、OSCEによる分娩介助技術評価を実施した。 4.助産実習Ⅰ 6月より実習調整・継続症例の選択、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を全て実施した。9月より1施設の実習を担当した。 助産実習Ⅱ 10月・11月分娩期から産褥期までの1連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をとおして実施。長期の実習であり、学生の健康の自己管理の指導、学生の到達度をみながら実習指導者との調整を行った。精神面のフォローのために何度か面接を実施し、最後まで実習をすることができた。 5.医学科との共修科目であるシュミレーション演習（1回）を担当した。 6.卒業研究Ⅰの登録学生2名の研究計画指導および卒業研究Ⅱの登録学生1名を指導した。 7.大学院生(前期課程)への研究指導補佐として、調査の分析・論文作成・審査に向けての資料の準備等の指導補佐を行った。 8.卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施した。卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施した。
研究	0.45	1.「出生体重と貧血との関連」について学会誌へ投稿 2.科研費による研究の実施 ・基盤C研究代表者：「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」について、報告書作成、国際学会での発表および論文の投稿 ・基盤C分担研究者：「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」 ・基盤C分担研究者：「離島で働く看護師の未病およびストレスコーピングに関する研究」	0.30	1.「出生体重と貧血との関連」について学会誌へ2月投稿準備中 2.科研費による研究の実施 ・基盤C研究代表者：「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」について、報告書を作成した。 国際学会WANSで2月に発表。3月論文の投稿 ・基盤C分担研究者：「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」について、アセスメントツールを作成するための予備調査の分析を担当した。 ・基盤C分担研究者：「離島で働く看護師の未病およびストレスコーピングに関する研究」
社会貢献	0.10	1.沖縄県助産師会の教育委員（助産師会の研修計画・運営） 2.全国助産師教育協議会の機関会員（他大学と協力しながら助産師教育の質の向上についての検討） 3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩介助法の講義・演習 4.沖縄県からの看護協会への委託事業である「助産師出向支援導入事業」のコーディネーター 5.琉球大学医学部保健学科同窓会（会報係） 6.母性衛生学会沖縄県支部（事務局） 7.琉球大学公開講座：「看護職の研究力アップ講座」	0.20	1.沖縄県助産師会の教育委員（助産師会の研修計画・運営） 助産実践能力習熟段階レベルⅢ認証に必要な研修を5回企画・運営を行った。 2.全国助産師教育協議会の機関会員として、新カリキュラム検討会に参加した。 3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩介助法の講義・演習を10回実施した。 4.沖縄県からの看護協会への委託事業である「助産師出向支援導入事業」のコーディネーターとして、出向1組をマッチングし研修を実施した。 5.琉球大学医学部保健学科同窓会、会報係として会報の作成、発行を担当した。 6.母性衛生学会沖縄県支部、事務局として本部との連絡係を行った。 7.琉球大学公開講座：「看護職の研究力アップ講座」 参加者に対して、実際行っている研究についての指導を実施した。 8.シミュレーションセンター主催のダイ7回KID'S　SIMにブース担当指導者として協力した。
管理運営	0.05	1.看護学教育カリキュラム検討委員会（指定規則改正に向けたカリキュラム改正案の作成） 2.臨地実習検討委員会 3.オープンキャンパスの助産師教育担当	0.10	1.看護学教育カリキュラム検討委員会の委員として、指定規則改正に向けてカリキュラム改正の検討を実施した。 2.臨地実習検討委員会の委員として、抗体価の検査結果のとりまとめ・実習施設への報告、臨地実習要項の作成をした。 3.オープンキャンパスの助産師教育紹介を担当した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙１）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小林　潤	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.28	学部教育はグローバル人材の育成についてさらに発展させる。新しい取り組みとしては大学の世界展開力事業なのかで、保健学科学生とマーシャル諸島等の大学との学生交流と遠隔教育を取り入れる。保健学の教育と英語教育をリンクさせてより実践的なグローバル人材育成を狙う。前年度強固となったJICA沖縄との連携は継続させて国際保健の早期体験の場所としてJICA沖縄と連携して企画していく。これらに昨年度新設された国際協力サークルの自主的活動を盛り込んでいく。卒業研究について引き続き海外提携校との連携強化を計る。また3-4年次学生については進路指導を積極的に行い、国内の研究ネットワークも紹介して就職の候補先として紹介していく。大学院教育では、昨年度実施できなかった体系化したカリキュラム作成と公衆衛生コース立ち上げの準備をすすめる。教室内学生のスーパービジョン体制については、重点項目として留学生の進路指導、日本人大学院生の国際機関やプロジェクトでのインターンシップの機会創出を設定する。2015年から行っているサーフチーム顧問として学生の指導とともに沖縄の健全なスポーツ育成を行い、今年度は障害者への支援やビーチクリーンなど社会貢献活動も促す。	0.28	世界展開力事業の一貫としてインドネシア・マタラム大学医学部、グアム大学保健学部と連携したオンライン講義を実施した。世界展開力事業では医学部学部教育で初めての試みとなり、実施前後に広報にも努力を行い、また来年度の継続実施を提携校と討議している。JICA沖縄との連携において、台北医科大学大学院生の短期受け入れ、学部生・大学院生の研修コースの参加および一部聴講が実施された。また本学での一部講義の公開が行われ、学部学生、大学院生の参加が行われた。受け持ち学部生の卒業研究は提携校であるフィリピン大学公衆衛生学部の受け入れの元実施され質の高い論文が作成された。大学院においては、博士後期課程において1名の質の高い学位論文が作成されるとともに、学長表彰の候補者として選出した。博士前期課程においては1名予定通り2年間での修士獲得がほぼ確定させることができた。また前期課程1名は2－3月にかけてJICAタイ事務所でのインターンシップを実現させた。大学院のカリキュラム改変は未だ検討事項として残っており、今後の課題となっている。全学体育系サークルのサーフチーム顧問として、障害者への支援活動への参加と定期的ビーチクリーン活動を開始して健全なるスポーツとしての指導を確立できた。保健学科中心の国際協力サークルURICの顧問として、勉強会実施の後押しや国際保健医療学会学生部との連携として講師として参加するなど強化を行った。この点は核となる学生が入れ替わるため来年度の強化が課題である。
研究	0.28	昨年度から研究アウトプット創出の点では飛躍的に向上し国際誌への投稿掲載が増加しているため引き続きこの体制を維持する。今年度の重点項目としては新規大方研究費の獲得のため外部機関との協調の上での申請をはかることと、民間資金の研究ファンドにも積極的にアプライする。	0.28	2019年に13編の論文が国際学術誌に掲載され、これまでの研究の公表に大きな成果を得た。また理事長として運営する国際学校保健コンソーシャムは、日本小児科学会と連携して国際誌Pediatrics Internationalに学校保健の国際普及と日本の経験に関する特集号を発刊することを実現しゲストエディターとして日本・アジアからの国際的発信を具体化した。個人としても2編の投稿を行った。大型研究費への申請を継続させたが獲得には至っていないが、ラオスの貧困僻地での地域保健の研究フィールドでの住民支援としてJICA草の根技術協力事業に応募し採択された。このため介入研究・観察研究のフィールド基盤強化が今後5年間実現することになり、今後の研究費獲得にも生かされることになった。また学校保健及び精神保健に関する研究はフィリピン・インドネシアをカウンターパートに継続し、上述のとおり論文の掲載など順調に成果を得ている。
社会貢献	0.19	国際保健医療学会常任理事国際連携委員長として韓国等の海外との学会の連携を模索する。国際学校保健コンソーシャム理事長としてアジア地域のNCD対策、高等教育での学校保健の普及をUNISCO等と連携して計る。ラオス保健研究コンソーシャム事務局長としてラオスでの研究強化を計り新規事業の申請をはかる。NPO法人メータオクリニック支援の会代表理事として会の運営を実施するとともに特に若手人材育成をはかる。	0.19	国際保健医療学会常任理事国際連携委員長として韓国グローバルヘルス学会を訪問し、今後の協力体制を討議し、相互の学会での共同セッションの実現に向けて討議を開始させた。国際学校保健コンソーシャムとして、大阪大学・パリ大学のUNESCOチェアと連携した事業を開始させた。また上述のとおり小児科学会との連携により学術的発信を強化できるとともに事務局に大学院生の参画を増やし若手人材育成の強化を継続して行った。ラオス保健研究コンソーシャム理事長に就任し、ネットワークの再構築運営強化を開始した。NPO法人メータオクリニック理事長として1年ほど途絶えていた医療関係者の現地への派遣を再開できた。
管理運営	0.25	保健学研究科学務委員長として大学院教育の体系化とグローバル化、大学院生特に留学生のメンタルヘルスを中心としたケアを向上させる。琉球大学ラオス拠点長としてJICAとの共同事業等の申請を模索する。国際教育委員、島嶼地域科学研究センター委員等として討議に参加しながら、琉球大学のグローバル化に貢献する。	0.25	保健学研究科とJICAとの連携強化を大学全体の連携の一部として実施し、その結果保健学研究科をJICAスカラーシッププログラムの対象として正式にリストアップさせることを実現化し、計7名の応募、2名の受験が実現した。また教員減少による科目選択が減少しているため、他研究科の科目を選択できるようにした。留学生の支援を卒後進路指導及び卒業後のフォローアップを海外提携機関との協力のもとに行い、現在すべての留学生が帰国後研究機関及び各省庁での就職（一部内定）している。新たに発足した全学の国際連携推進委員会委員長として琉球大学全体とJICAとの連携強化の一貫として各学部の協力を見える化し具体的連携を活性化された。島嶼地域科学研究所の実施する研究事業に参画し、人文系との連携による研究事業を開始することができた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	野中　大輔	所　属	医学部　保健学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.70	大学院生に対する授業（公衆衛生研究I、公衆衛生研究II、環境保健学等など）を担当する。留学生に配慮し、英語で授業を行う。演習（1回/週）や個別指導（随時）を通じて、大学院生（9名）の研究能力向上に努める。演習では、国際保健に対する系統的理解と実務能力の向上のために、テーマ毎のディスカッションを新たに導入する。学部生に対しては、一部の講義（ヒトの健康科学、国際環境保健学の各1コマ）を担当する。3年生の指導教員（2組）として、学習・生活・進路指導に努める。	0.70	大学院生に対する授業（公衆衛生研究I、公衆衛生研究II、環境保健学等など）を担当した。留学生に配慮し、環境保健学は英語で授業を行った。演習（1回/週）や個別指導（随時）を通じて、大学院生（9名）の研究能力向上に努めた。演習では前期に限り、国際保健に対する系統的理解と実務能力の向上のために、テーマ毎のディスカッションを実施した。学部生に対しては、一部の講義（ヒトの健康科学、国際環境保健学の各1コマ）を担当した。3年生の指導教員（2組）として、学習・生活・進路指導に努めた。
研究	0.20	国際学術誌に5編の論文発表を目指す。国際学会にて、2件の発表を目指す。獲得した外部資金（科研費）を用いて、ラオス国の公衆衛生機関と国際共同研究を継続する。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究活動に貢献する。	0.20	国際学術誌に5編の論文発表を行った。国際学会にて、1件の発表を行った。獲得した外部資金（科研費）を用いて、ラオス国の公衆衛生機関と国際共同研究を継続した。日本国際保健医療学会の代議員および日本疫学会の代議員として、学会の研究活動に貢献した。
社会貢献	0.05	JICAの研修コース（エビデンスに基づく公衆衛生計画立案）の主講師として、アジア・アフリカ等の保健行政官等に対して、研修を提供する。	0.05	JICAの研修コース（エビデンスに基づく公衆衛生計画立案）の主講師として、アジア・アフリカ等の保健行政官等に対して、研修を提供した。母子保健や感染症対策研修コースにおいても、研修を提供した。
管理運営	0.05	グローバル教育支援機構の併任教員として、アドミッション部門の活動に貢献する。全学の付属図書館運営委員や付属図書館学術情報基盤資料選定委員として、管理運営に貢献する。保健学科の教務委員として、管理運営に貢献する。	0.05	グローバル教育支援機構の併任教員として、アドミッション部門の活動に貢献した。全学の付属図書館運営委員や付属図書館学術情報基盤資料選定委員として、管理運営に貢献した。保健学科の教務委員として、管理運営に貢献した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	當山　紀子	所　属	医学部保健学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.50	①「地域アセスメント」、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護管理」、「公衆衛生看護実習Ⅱ」の講義及び実習を主担当で実施する。また、分野で開講する「地域看護学」、「地域アセスメント実習」、「島嶼地域看護論」、「公衆衛生看護実践学Ⅰ」、「公衆衛生看護実践学Ⅱ」、「公衆衛生看護実習Ⅰ」は一部を担当する。 ②分野外で開講する講義（「ヒトの健康科学」、「衛生学・公衆衛生学」）の一部を担当する。 ③卒業研究登録希望の3年生や卒業研究登録済の4年生を対象に、研究の指導を行う。 ④保健師就職希望者への進路相談を行う。	0.50	①「地域アセスメント」、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護管理」、「公衆衛生看護実習Ⅱ」の講義及び実習を主担当で実施し、学生教育への役割を果たすことができた。また、分野で開講する「地域看護学」、「地域アセスメント実習」、「島嶼地域看護論」、「公衆衛生看護実践学Ⅰ」、「公衆衛生看護実践学Ⅱ」、「公衆衛生看護実習Ⅰ」は講義、演習、実習の一部を担当或いは補佐し、学生教育への役割を果たすことができた。 ②分野外で開講する講義（「ヒトの健康科学」、「衛生学・公衆衛生学」）の一部を担当し、学生教育への役割を果たすことができた。 ③卒業研究登録した4年生への研究指導を行い、学生は研究発表及び論文提出することができた。卒業研究登録した3年生には、現在も研究指導を行っており、来年度引き続き指導を行う。 ④保健師就職希望者への進路相談を行い、数名の学生が保健師として就職した。
研究	0.30	①科研C「ラオス国少数民族の母子保健継続ケアの利用と関連する要因に関する介入研究」を実施する。 ②科研C「日本の乳幼児死亡率等改善の歴史を活用した国際保健教材の開発」に分担研究者として参加する。 ③毎月開催の保健科学研究会に参加する。また、年1回は研究成果を発表する。	0.30	①科研C「ラオス国少数民族の母子保健継続ケアの利用と関連する要因に関する介入研究」については、データ分析を行い、10月にラオスで報告を行い、2月に国際学会で発表を行う予定である。 ②科研C「日本の乳幼児死亡率等改善の歴史を活用した国際保健教材の開発」については、インタビュー結果の分析を行い、12月に学会で発表を行った。 ③毎月開催の保健科学研究会に可能な範囲で参加した。また、5月に自身の研究成果を発表した。
社会貢献	0.10	①琉球大学と連携して開催している国際協力機構沖縄国際センターの研修会で講師を務める。 ②チェンマイ大学との交流プログラムに協力する。 ③所属している職能団体の委員として地域貢献する。 ④所属している学会の評議員として社会貢献する。 ⑤所属しているNGOの理事として国際貢献する。	0.10	①琉球大学と連携して開催している国際協力機構沖縄国際センターの研修会の5コースにおいて講師及び実施計画書作成のアドバイザーを務めた。 ②チェンマイ大学との交流プログラムに協力し、送迎など行った。 ③所属している職能団体の委員として委員会及び活動に参加した。 ④所属している学会の評議員として学会に参加した。 ⑤所属しているNGOの理事として国際貢献に寄与した。
管理運営	0.10	①看護コース臨地実習検討委員会の委員として管理運営に貢献する。 ②オープンキャンパスの準備・運営を補佐する。	0.10	①看護コース臨地実習検討委員会の委員として委員会に参加した。 ②オープンキャンパスの準備・運営を補佐した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1） 本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	當山裕子	所　属	医学部保健学科	職　名	講師

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	「地域アセスメント」「地域看護学」「公衆衛生看護学概論」[「公衆衛生看護実践学Ⅰ」「公衆衛生看護実践学Ⅱ」「島嶼地域看護論」「公衆衛生看護管理」「在宅看護実践学」の講義を担当し、アクティブラーニングを取り入れた授業設計で学生の柔軟な思考力の向上に努める。「地域アセスメント実習」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」を担当し、地域の課題に取り組める人材の育成に努める。 卒業研究登録希望者の3年次や卒業研究登録済の4年次を対象に、研究ゼミを行う。 保健師就職希望者への進路相談を行う。実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政保健師へ大学院進学をすすめる。2年次指導教員として学生の支援を行う。	0.30	「地域アセスメント」「地域看護学」「公衆衛生看護学概論」[「公衆衛生看護実践学Ⅰ」「公衆衛生看護実践学Ⅱ」「島嶼地域看護論」「公衆衛生看護管理」「在宅看護実践学」の講義を担当し、アクティブラーニングを取り入れた授業設計で学生の柔軟な思考力の向上に努めた。「地域アセスメント実習」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」を担当し、地域の課題に取り組める人材の育成に努めた。 卒業研究登録の3年次1名、4年次4名を対象に、研究ゼミを行った。 保健師就職希望者への進路相談を行った。実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政保健師へ大学院進学をすすめた。2年次指導教員として学生の支援を行った。
研究	0.40	保健師の能力や母子保健に関連する研究を行い、学会発表や論文投稿を行う。 科研C「沖縄県における母子保健推進員の組織化と駐在保健師の機能」を研究代表者として遂行する。科研C「高齢期、慢性・虚弱化、終末期患者家族支援としての介護者QOLの定量化に関する研究」に研究分担者として参加する。	0.40	琉球医学会誌に「Relationship between social capital and disaster preparedness in parents raising infants」が受理された。日本公衆衛生看護学会誌に2本投稿中である。 科研C「沖縄県における母子保健推進員の組織化と駐在保健師の機能」を研究代表者として遂行し、World Academy of Nursing Sciences, International Council of Nursesにて発表した。 科研C「高齢期、慢性・虚弱化、終末期患者家族支援としての介護者QOLの定量化に関する研究」に研究分担者として参加した。 日本乳幼児精神保健学会の運営委員、座長を務めた。第8回日本公衆衛生看護学会学術集会で発表及び座長を務めた。
社会貢献	0.10	沖縄県「健やか親子おきなわ21」推進専門部会の委員として活動する。 那覇市母子保健推進協議会の委員として活動する。 浦添市健康づくり推進協議会の委員として活動する。 沖縄県保健師等人材確保推進委員会の委員として活動する。 日本公衆衛生看護学会評議員として活動する。	0.10	那覇市母子保健推進協議会の委員・委員長として活動した。 浦添市健康づくり推進協議会の委員として活動した。 沖縄県保健師等人材確保推進委員会は開催されていない。 日本公衆衛生看護学会評議員として活動した。 日本公衆衛生学会評議員として活動した。 沖縄県南部保健所運営協議会の委員として活動した。 沖縄県看護協会協会立訪問看護ステーションあり方検討会委員・委員長として活動した。 JICA研修生への講義及び活動計画への助言を行った。 沖縄県中堅保健師研修会の企画・講師を担った。
管理運営	0.10	分野の代表を担う。 保健学科教務委員会、全学学士教育プログラム委員会の委員として活動する。 看護学コースカリキュラム検討委員として活動する。 全国保健師教育機関協議会社員として総会等に出席する。	0.20	分野の代表を担った。 保健学科教務委員会、全学学士教育プログラム委員会の委員として活動した。 看護学コースカリキュラム検討委員として活動した。 全国保健師教育機関協議会社員として総会等に出席した。 医学部移転にともなう講義・実習棟、研究棟の移転に係る検討を行い、講座代表として意見を取りまとめた。 保健学科保健科学研究会の世話人を務めた。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	髙原　美鈴	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・臨床実践を踏まえた授業ならびに実習指導 ・研究活動の授業への反映 ・学生からの積極的な意見の聴取 ・教育補助者の有効活用、その資質の向上	0.40	・授業内容に関しては、これまでの臨床実践経験をふまえ、演習形式の授業を増やし行った。また、授業では、研究活動で実施している家族会の声を踏まえて授業へ反映させた。 ・実習指導においては、学生が安心・安全に学習できるよう実習先との連絡調整を行い、教育補助者と協力し取り組んだ。
研究	0.40	・国内外の関連学会への成果発表 ・学会誌への投稿 ・科学研究費助成事業（H28～31年度）	0.35	・原著論文1編（髙原美鈴，他：統合失調症を患う息子に対応する母親のケア意識の変容プロセス，琉球医学会誌，38(1-4):73～82，2019）に受理された。また、共著として1編が受理された。 ・The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science; the 6th WANSで2020,2,28 Poster予定。 ・科学研究費の最終年度のまとめを行っている。
社会貢献	0.10	・附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションへの参画 ・琉球大学公開講座「看護職の研究力アップ講座」への参画 ・「2019乳幼児精神保健学会」事務局運営 ・学外の委員会等への参画	0.15	・琉球大学医学部附属病院5東病棟の看護研究指導を行った。 ・医療法人フェニックス博愛病院において、看護研究指導を行った。また、心理教育委員会の委員となり、心理教育について勉強会を実施している。 ・琉球大学公開講座「看護職の研究力アップ講座」参加者の看護職者へ看護研究指導を行った。 ・2019日本乳幼児精神保健学会沖縄大会（2019，11/23.・24）の実行委員として運営を行った。 ・2019年8月より沖縄県立看護大学同窓会役員となり、運営に携わっている。
管理運営	0.10	・全学的委員会での具体的貢献 ・所属部局学科等における委員会での具体的貢献 ・入試関連業務における具体的貢献	0.10	・全学的委員会活動(2)を務めた。 ・入試関連業務を遂行した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	今泉　直樹	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・担当講義・実習（血液・免疫学、生理学検査）について、現場で必要となる手技、原理、データの解釈および国家試験対策を含めた指導を行う。 ・卒研生、大学院生の研究サポート、発表・論文作成の指導を行う。 ・血液免疫学分野の講義科目、研究内容について学生の反応見ながら、最も理解を深めることができるようその時々に対応した準備と説明を工夫する。　・日本臨床衛生検査技師会や検査技師が、実際に求めている人材や今後重要となる技術、知識、就職状況等の情報を提供する。	0.40	・担当講義・実習（血液・免疫学、生理学検査）では、実際の操作を実演し、理解が難しい点についてはPCや動画を用いた方法を用いて説明、指導を行なった。また、実際の現場での業務について講義・実習を提供するため、沖縄県の検査技師への依頼・調整を行った。今年度は関係法規、情報科学演習、生命倫理について講義、チューターを担当した。　・卒研生、大学院生の研究サポート、学会発表、論文作成・校正のアドバイスを行なった。 ・血液免疫分野の講義科目について勉強と準備、引き継ぎを行った。 ・学生に沖縄県や県外の検査技師の現状について情報を提供した。 以上より、年度目標以外の業務についても行うことができた。
研究	0.40	・アセトアミノフェンと薬物代謝酵素についての研究成果をまとめ、海外雑誌への論文投稿を行う。 ・昨年度より企業との共同研究を始めた『沖縄バイオ資源の血管拡張作用』について研究を進め、更なる研究費獲得を目指す。特に今年度は学内競争資金やJSTのA-STEPへの応募を行う。	0.40	・アセトアミノフェンと薬物代謝酵素については追加実験を行う必要となり、海外雑誌への投稿を延期した。『沖縄バイオ資源の血管拡張作用』について、研究費が獲得し、メタボローム解析を用いて研究を進展させた。 ・HTLV-1プロジェクトに関して、ルーチン業務であるサザンブロット、プロウィルス定量や細胞株の培養を行った。また、HTLV-1臨床検体の血漿中のタンパク解析、RT-PCR等の測定を行い、共著者として論文投稿に携わった。
社会貢献	0.10	・沖縄県臨床検査技師会の講習会や勉強会開催に協力し、大学、学生、現場の検査技師との橋渡しを行い協力して沖縄県の臨床検査向上に努める。 ・保健学科同窓会の役員としての職務を行う。	0.05	・沖縄県臨床検査技師会主催の講習会、勉強会へ参加及び開催準備を行い、様々な検査技師と意見交換を行った。 ・保健学科同窓会役員の業務や、保健学科50周年記念事業に従事した。
管理運営	0.10	・ゼミ室・実験室の整理整頓、業務・研究を行いやすい環境を作る。 ・研究室の運営、プロジェクトの進行がスムーズに行えるように管理を行う。 ・検査技術学コース国試対策の模試について業者模試を含めた運営を行う。　・今年度より引き継いだ共通機器の管理を行う。	0.15	・ゼミ室・実験室の環境、研究室の運営を行なった。 ・検査技術学コース国試対策模擬試験を模試を行った。 ・今年度より引き継いだ共通機器の管理、修理依頼等を行った。 ・機器選定および移転整備委員会の活動、入試業務を行なった
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	上原佳里奈	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.20	分野長指導の下で講義・実習等をおこなう。卒研生・院生の指導を行う。	0.15	解剖学・組織学及び病理学の顕微鏡実習と講義を担当した。染色実習では、試薬の準備から実習指導まで実施できた。また、卒業研究では4年次4名の指導を行った。
研究	0.70	病理学会・分子生物学会で学会発表を行う。学術論文の執筆・投稿。	0.75	第108回病理学会（東京）でポスター発表と口演を行った。英語論文を1報パブリッシュし、新たに1報投稿中。査読を6回行った。
社会貢献	0.03	沖縄県臨床検査技師会の学会や研修会の運営を手伝う。	0.02	検査技師会の研修会 世話役を担当し、運営の手伝いを行った。
管理運営	0.03	オープンキャンパスの運営・調整等を行う。入試試験監督を担当する。	0.06	オープンキャンパスの運営・センター試験および一般入試の試験監督を担当した。また、学科ホームページ作成委員会に所属し、主にデザインを担当した。
進路指導	0.05	学生とコミュニケーションを取り、適切な指導・アドバイスができる。	0.02	卒研生や担当教科の学生と積極的にコミュニケーションをとり、適切なアドバイスができた。進路相談などを通して、学生をサポートできた。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	平井　到	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。また、今年度より1年生の指導教員であるのでメンタルヘルスの観点からも学生生活を注視し、必要があれば当該学生に対し面談を行う。大学院の学生に対しては、日常的な討論議論、相談等によって目的が達成できるよう支援する。	0.25	本年度の目標通り、学生との対話を多く取り入れた講義・実習を行うことができた。また、1年生の指導教員として、学生生活について指導を行うことができた。大学院学生にも学術論文を深く読み解いていく会を定期的に行い、実際に研究室で技術的な指導を行うなど、大学院生の教育指導を行った。以上のことから目標は達成されたと考えられる。
研究	0.40	日本学術振興会の科研費や大学、他の財団等からの研究費の獲得をむけ、学内外の共同研究者と研究計画を作成し申請する。複数の論文投稿及び国内外の学会発表を行う。	0.40	大型の研究費の獲得のために地球規模課題対応国際科学技術協力プログラムや科学研究費の申請を行った。また、本年度は複数の論文を投稿し、そのうち現時点で受理されている論文もある。また、アメリカ微生物学会総会(ASMI Microbe 2019)にポスター発表を行ったほか、日本細菌学会総会においても発表を行った。以上のことから目標は達成されたと考えられる。
社会貢献	0.10	e-ASIA共同研究及び科学研究費におけるベトナム人共同研究者及びインドネシア人共同研究者への技術移転を行う。	0.10	インドネシアやベトナムに渡航した際に講演を行うなどした技術移転を行った。また、JICA沖縄センターで行われたJICAの事業に講師として薬剤耐性菌に関する講義を行った。これらのことから目標を達成することができたと考えられる。
管理運営	0.25	「研究基盤センター」の運営のほか、「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」、「ハラスメント防止対策委員会」「研究推進会議」等、学内、学部内委員会への積極的な取り組みを行う。	0.25	「研究基盤センター長」、「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会委員長」、「ハラスメント防止対策委員会及び事案対応専門委員会」「研究推進会議貴企画院」などとして、それぞれの組織や委員会に積極的に参加し大学の運営に取り組んだ。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	粟田　久多佳	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	シラバスにそって担当科目（生理学、臨床生理学、医用電子工学、画像診断学などの）の講義、実習を行う。	0.40	予定通り講義実習をおこなった。
研究	0.35	研究を論文にまとめ投稿する。	0.35	論文にまとめることはできなかった。
社会貢献	0.05	学校検診委員会、学校医として活動する	0.05	それぞれの場で活動できた。
管理運営	0.20	学内、学科内の委員として参加する。	0.20	教務委員として活動した。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	尾尻　義彦	所　属	医学部　保健学科	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.40	・インターネットWebclass（ICT）による授業の実施 ・学生実習（生理学・臨床生理学Ⅰ）の効率化と充実を図る ・卒業研究の指導 ・共通教育保健体育系科目「運動スポ科学演習（マラソン）」の実施 ・公開講座「楽楽ランニングで目指せ！NAHAマラソン完走！！」の実施 ・オフィースアワー等における進路指導	0.45	目標はすべて達成された。
研究	0.25	・運動継続が姿勢と足裏形状に及ぼす影響に関する研究 ・高齢市民ランナーの医学、生理学的特徴に関する研究	0.20	目標はおおむね達成された。実験装置（トレッドミル）の使用ができなくなり、一部予定した実験ができなかった。
社会貢献	0.25	・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導 ・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援 ・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援 ・ミニトランポリンによる健康運動の啓蒙・普及 ・沖縄県マスターズ陸上競技連盟の理事（副会長）	0.25	目標はすべて達成された。
管理運営	0.10	・琉球大学地域連携推進機構産学官連携部門連絡会委員 ・講座連絡会の運営 ・大学入試センター試験監督 ・オープンキャンパスの準備・運営	0.10	目標はすべて達成された。
	0.00		0.00	
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）

☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。

（別紙1）本シートは平成32年5月以降に学内外へ公表されます。

平成31年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（1枚目）

名　前	福島　卓也	所　属	医学部　保健学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成31年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成31年度　年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.30	・学生が理解しやすい授業の工夫 ・学生とのコミュニケーションを重視した授業 ・学部生への研究指導 ・保健学研究科学生に対する専門教育・研究論文執筆指導 ・国費外国人留学生に対する専門教育・研究論文執筆指導	0.25	・保健学科だけでなく医学科学生に対して授業を行い、左記の目標を達成した ・4年次卒研生5名に対する研究指導を行った。 ・当教室博士後期課程2名、博士前期課程1名に対する研究指導を行うとともに、保健学研究科学生全体に専門教育を行った。 ・当科国費外国人留学生（博士後期課程）に対する研究指導とともに、その他当研究科国費外国人留学生に対する専門教育を行った。
研究	0.30	・AMED研究費補助金（塚崎班, 田中班）による分担研究者としての研究 ・科学研究費補助金（研究代表者）による研究の推進 ・NEC社との共同研究（新規免疫療法の開発、バイオマーカーの探索）の研究推進　・論文投稿	0.30	・AMED研究費（塚崎班、田中班）の分担研究を遂行した。 ・科学研究費補助金による研究を推進した。 ・NEC社との共同研究によるATL新規バイオマーカー探索の研究成果が米国血液学会で口演発表に採択された ・6報の論文が採択された。
社会貢献	0.05	・地域医療機関への診療支援 ・骨髄移植推進財団調整医師としての活動 ・日本血液学会評議員としての活動 ・日本造血細胞移植学会評議員としての活動	0.10	・ハートライフ病院、かりゆし病院、オリブ山病院において診療支援を行った。 ・骨髄移植推進財団調整医師として活動した。 ・日本血液学会評議員として、診療委員会などの委員会活動を行った。
管理運営	0.30	・保健学科長としての仕事 ・保健学研究科長としての仕事 ・医学部内委員会委員としての活動 ・学科内各委員会委員としての活動	0.30	・保健学科長、保健学研究科長として運営、研究費獲得のために活動した。特にグローバルヘルスに関する活動を展開した。 ・学部内、学科内委員会委員として、医学部、保健学科の安定した運営に貢献した。
診療	0.05	・医学部附属病院血液内科外来担当 ・血液内科入院患者カンファランスでのアドバイス	0.05	・医学部附属病院第二内科血液グループの新患外来担当、カンファランスにおけるアドバイザーとして患者診療に貢献した。
計	1.00		1.00	

※当該シート（表）の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください（プルダウン選択式）　☐ 学外公表に同意しない。　☐ 学内外公表に同意しない。